2023年度
決算説明会資料

※ 本資料に記載されている業績予想、並びに将来予測は、当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠していますが、その正確性、或いは完全性について、当社は何ら表明、及び保証するものではなく、実際の業績は、様々な要因の変化により、記載されている業績予想、並びに将来予測とは異なる可能性があることをご承知おきください。

※ 本資料は百万円未満を切り捨てて表示してあります。

中越パルプ工業株式会社

目次

Ⅰ．2023年度　連結決算概要	
1．連結業績概要	1
2．セグメント別損益	2
3．連結営業利益増減内訳	3
4．連結有形固定資産増減明細	4
5．連結キャッシュ･フロー計算書	5
Ⅱ．2024年度　連結業績予想	
1．連結業績予想	6
2．連結営業利益増減内訳(計画)	7
Ⅲ．中期経営計画2025　取組み状況	
1．概要	8
2．スケジュール進捗①②	9,10
3．高岡工場Ｎ６号マシン	11
4．事業ポートフォリオ(売上高構成)	12
5．サステナビリティ（ESG）活動	13,14
6．nanoforest実用化､高機能CNF研究開発の加速	15,16
7．中越エコプロダクツ事業	17
Ⅳ．参考資料	
1．連結業績推移	18
2．連結自己資本利益率(ＲＯＥ)推移	19
3．連結有利子負債残高推移	20
4．連結設備投資･減価償却費推移	21
5．原燃料価格推移(対2015年度比較)	22

連結業績概要

主な変動要因
紙：[売価] 〈国内〉価格改定実施 [数量] 〈国内〉デジタル化進行等による グラフィック用紙の需要減退 〈輸出〉市況停滞により減 パルプ：生産体制増強効果
◇価格改定、パルプ数量増 他 ◆原燃料・薬品価格の高止まり、 円安、数量減(減販・減産)
増配(当初予想＋10円/株)

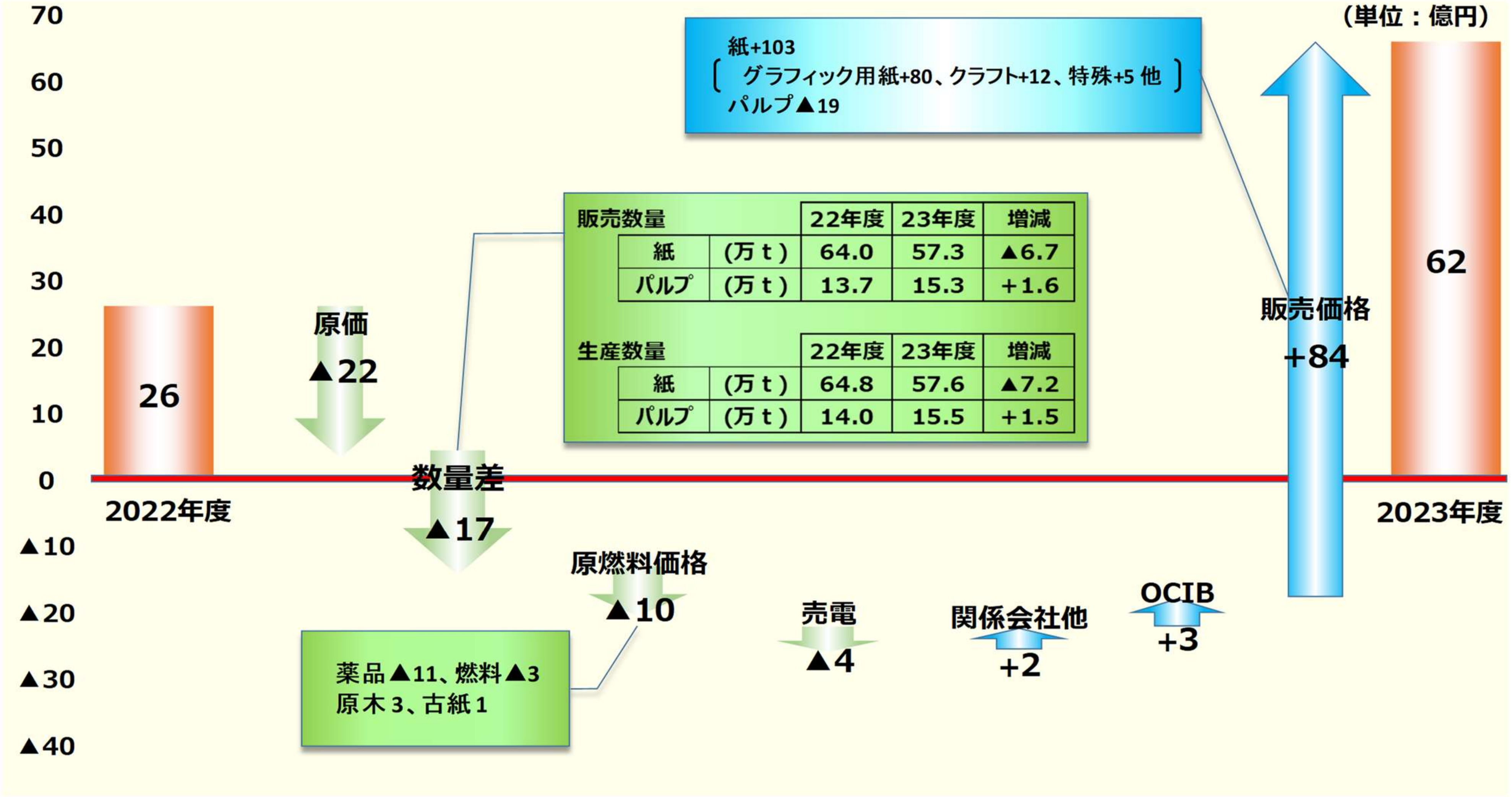
(単位：百万円)	2022年度	2023年度	増　減
売上高	105,668	107,826	＋2,158
営業利益	2,594	6,172	＋3,578
経常利益	3,397	6,820	＋3,423
親会社株主に帰属する当期純利益	3,050	3,701	＋651
年間配当金(円/株)	50.00	60.00	＋10.00
自己資本利益率(ROE)(%)	6.1	6.9	＋0.8
減価償却費	5,823	5,926	＋103
為替レート(円/US$)	135.34	143.94	8.60円安
ドバイ原油(US$/bbl)	97	84	13安
連結子会社数(社)	8	7	▲1
持分法適用会社数(社)	6	6	±0

セグメント別損益

（単位：百万円）

		2022年度	2023年度	増減
紙・パルプ製造事業	売　　上　　高	94,242	96,826	+2,584
	セグメント損益	1,547	5,512	+3,965
発電事業	売　　上　　高	7,340	7,039	▲301
	セグメント損益	806	410	▲396
その他	売　　上　　高	16,549	17,036	+487
	セグメント損益	112	279	+167
調整額	売　　上　　高	▲12,463	▲13,075	▲612
	セグメント損益	129	▲29	▲158
合計	売　　上　　高	105,668	107,826	+2,158
	セグメント損益	2,594	6,172	+3,578

連結営業利益増減内訳



販売数量		22年度	23年度	増減
紙	(万 t)	64.0	57.3	▲6.7
パルプ	(万 t)	13.7	15.3	+1.6

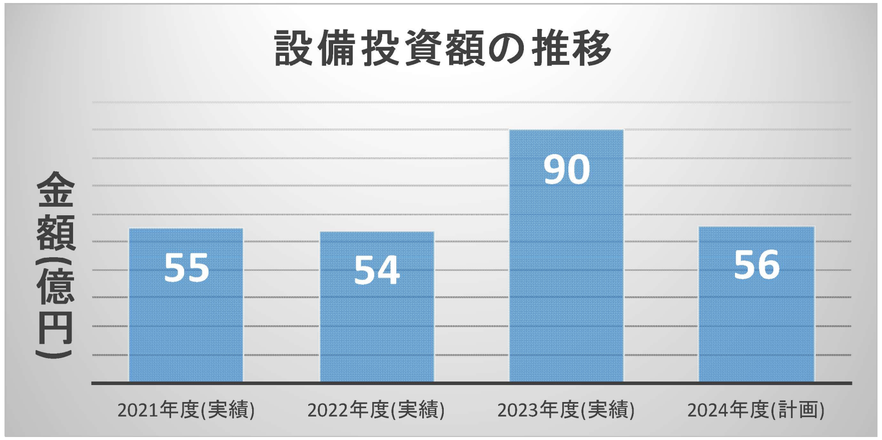
生産数量		22年度	23年度	増減
紙	(万 t)	64.8	57.6	▲7.2
パルプ	(万 t)	14.0	15.5	+1.5

連結有形固定資産増減明細

（単位：百万円）	2023年3月末	増　加	減価償却	除却等	2024年3月末	増　減
中 越 パ ル プ	47,209	8,860	▲5,561	▲1,005	49,503	+2,294
連 結 子 会 社	6,548	277	▲244	▲252	6,329	▲219
連　結　調　整	▲1,677	▲20	17		▲1,680	▲3
合　　　　計	52,080	9,117	▲5,788	▲1,257	54,152	+2,072

主なる増加の内訳

・高岡工場　家庭紙マシン新設	32億円
・川内工場　６RB ４次低温過熱器管更新	14億円
・東京本社再開発	3億円



連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）	2022年度	2023年度	増　減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,662	13,564	＋10,902
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲5,124	▲7,905	▲2,781
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲4,795	▲3,102	＋1,693
現金及び現金同等物残高	8,110	10,670	＋2,560

営業活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

税金等調整前当期純利益 50、減価償却費 59 他

投資活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

有形固定資産の取得▲80 他

財務活動によるキャッシュ・フロー内訳（億円）

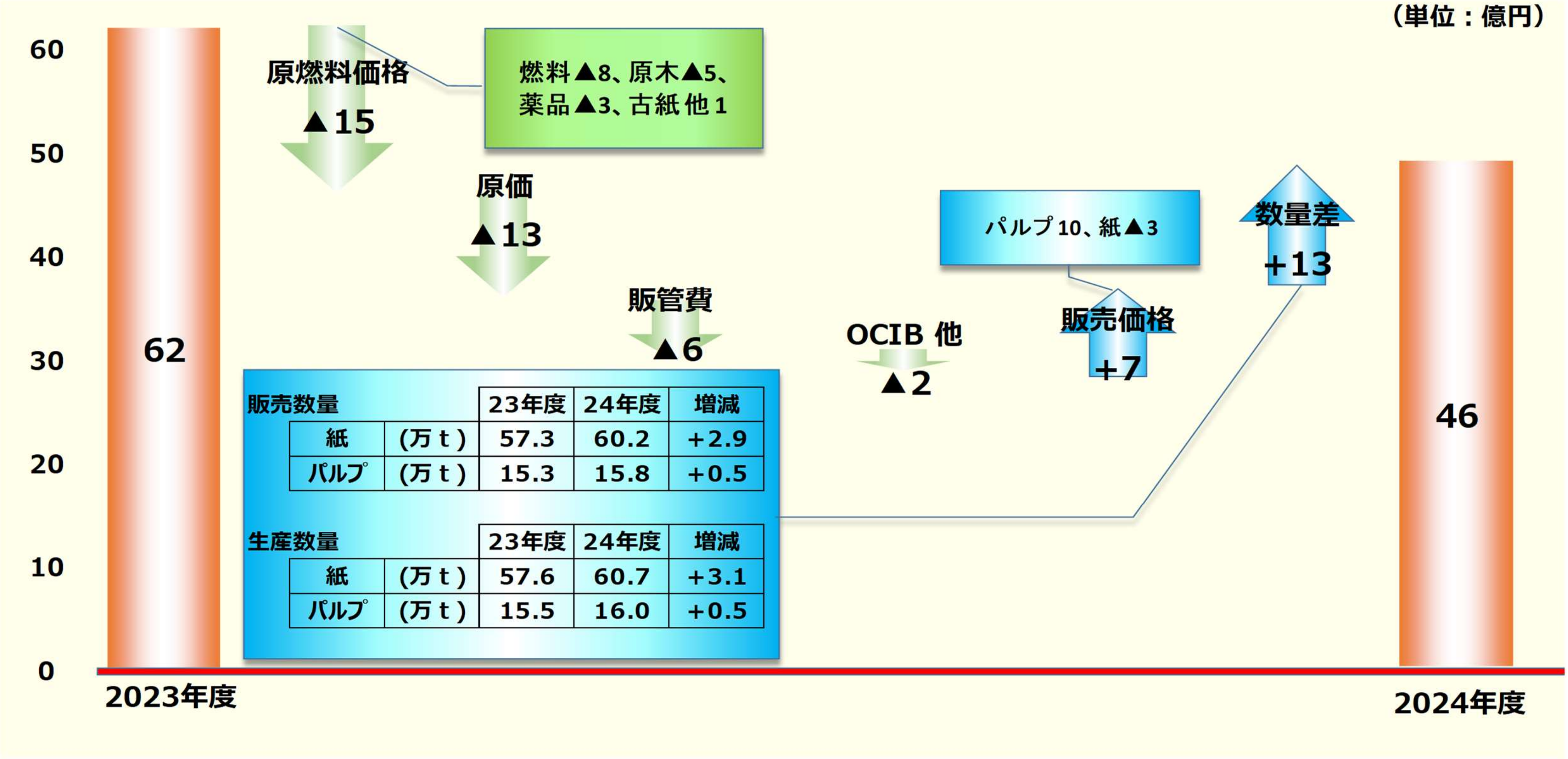
長期借入金の減少▲27 他

連結業績予想

主な変動要因
紙：[数量] 〈国内〉家庭紙増 〈輸出〉東南アジア向け増 パルプ：生産体制増強効果
◇数量増、効率改善 ◆円安、原燃料・薬品価格の上昇、物流コスト増
対US$1円円安につき▲95百万円/年
1US$/bbl高につき▲65百万円/年

(単位：百万円)	2023年度	2024年度	増　減
売上高	107,826	112,000	+4,174
営業利益	6,172	4,600	▲1,572
経常利益	6,820	4,900	▲1,920
親会社株主に帰属する当期純利益	3,701	3,200	▲501
年間配当金(円/株)	60.00	60.00	±0.00
自己資本利益率(ROE)(%)	6.9	5.6	▲1.3
減価償却費	5,926	6,420	+494
為替レート(円/US$)	143.94	155.00	11.06円安
ドバイ原油(US$/bbl)	84	85	1高
連結子会社数(社)	7	7	±0
持分法適用会社数(社)	6	6	±0

連結営業利益増減内訳(計画)



販売数量		23年度	24年度	増減
紙	(万 t)	57.3	60.2	+2.9
パルプ	(万 t)	15.3	15.8	+0.5

生産数量		23年度	24年度	増減
紙	(万 t)	57.6	60.7	+3.1
パルプ	(万 t)	15.5	16.0	+0.5

中期経営計画2025　取組み状況：概要

中期経営計画２０２５

①既存事業の構造転換（紙に占めるグラフィック用紙の比率減　75→60%）
　(1)紙パルプ事業の生産体制再構築
　(2)グループ関係会社事業の選択と集中による収益力強化

②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進

ビジョン２０３０

既存事業の発展・環境ビジネスの発展・イノベーションにより、森林資源の有効活用を通した循環型社会の構築と持続可能な未来を実現する

＜収益目標＞

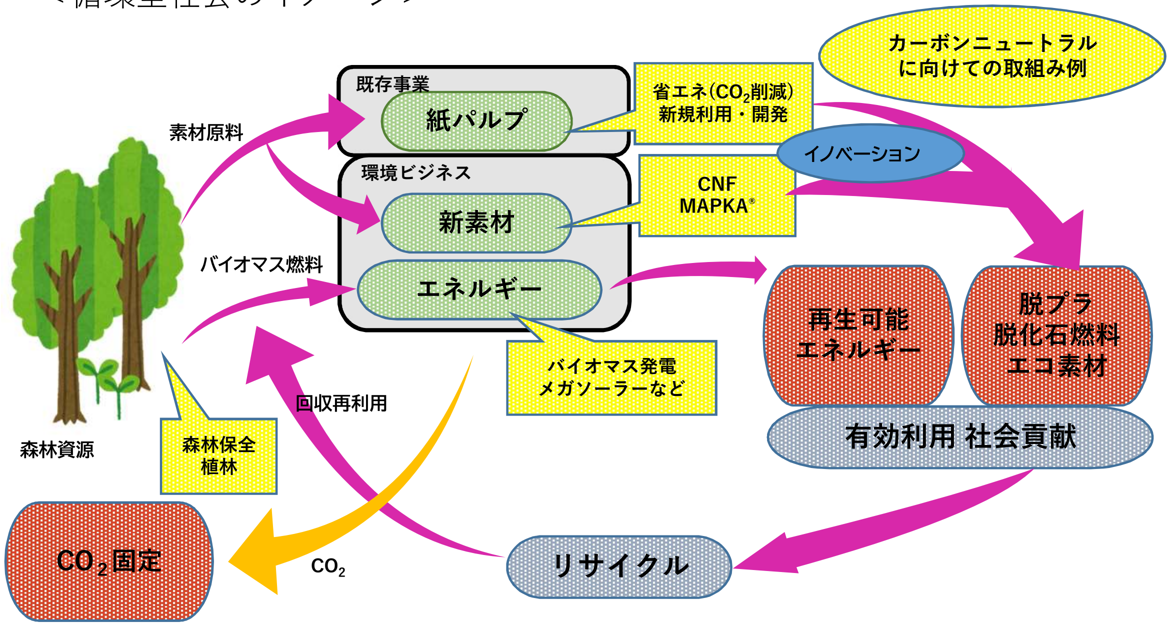
	中期経営計画目標	２０２３年度（実績）	２０２２年度（実績）
営業利益	４０億円	６２億円	２６億円
ROE	５%以上	６．９%	６．１%

＜２０３０年度　環境目標＞

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、製造工程における化石燃料由来のCO_2排出量を２０３０年度までに２０１３年度比５０%削減する。

	２０１３年度	２０２３年度	削減率（2013年度比）
千t-CO2/年	４１１	２６０	３６．７%

＜循環型社会のイメージ＞



中期経営計画2025　取組み状況：スケジュール進捗①

≪①既存事業の構造転換　進捗≫

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
①既存事業の構造転換	(1)-Ⅰ 6号マシン停機	生産集約完了	●2022年９月末 高岡工場６号マシン停機			
	(1)-Ⅱ 家庭紙マシン新設			設置	稼働 ●2024年2月営業運転開始	
	(1)-Ⅲ 事業領域拡大		パルプ増販	●生産体制強化完了		
		脱プラ需要など紙の新規利用の拡大				
		●外販パルプ増販量：2020年度比94％増、紙パルプ拡大領域：2020年度比7％増				
	(2) 関係会社収益力強化	三善製紙営業権譲受完了・文運堂文具事業譲渡完了				

●家庭紙マシンは当初計画通り2023年12月に高岡工場N6号マシンを稼働し、2024年2月から営業運転を開始しています。

●外販パルプは生産体制強化により2020年度比94％の販売量増となり、脱プラなど紙の新規需要取り込みを含め、紙パルプ拡大領域は2020年度比7％増となりました。

中期経営計画2025　取組み状況：スケジュール進捗②

≪②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進　進捗≫

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
②森林資源を活用した環境投資・環境ビジネス推進	Ⅰ CNF実用化・開発加速	高機能CNFプラント	2022年春より設備検証テスト開始、順次サンプル販売開始			
		nanoforestの新たな分野への利用拡大				
		●化粧品原料販売開始、農業利用の取り組みが「みどりの食料システム戦略に基づく基盤確立実施事業」に認定				
	Ⅱ 中越エコプロダクツ		製造設備試運転完了	品質確認完了後、営業運転		
	Ⅲ バイオマス発電(検討)	検討				
	Ⅳ 既存ボイラー脱石炭	削減取り組み中　●2023年度実績：石炭使用量2020年度比44%削減(11,300t-CO_2削減)				
	Ⅴ 植林事業	2030年度までに1,000haを目標に実施中　●2022年度より着手、順次拡大予定				

●CNFについては化粧品用途向け原料としてnanoforest-S【MicC】及びnanoforest-M【MicC】の販売を開始しました。また、植物向けの新たな物理的防除資材であるnanoforest-S【アグリ】の普及に関する取り組みが、農林水産省「みどりの食料システム戦略に基づく基盤確立事業実施計画」に認定されました。

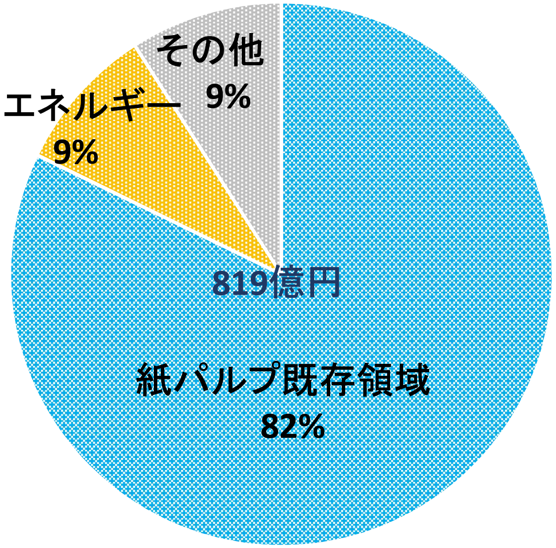
●薩摩川内市において、バイオマス資源を活用した発電設備の検討を行っています。
2026年以降の稼働を目指し、引き続き投資計画を検討中です。

中期経営計画2025　取組み状況：高岡工場N6号マシン

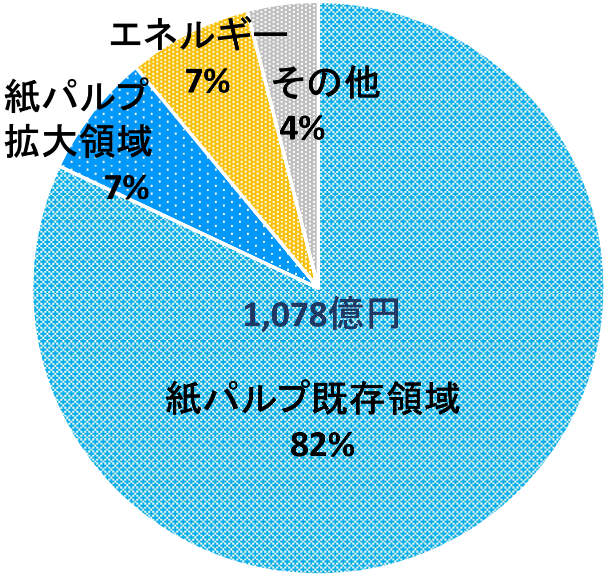
中期経営計画2025において、既存事業の構造転換として進めていた家庭紙マシンの新設について、当初の計画通り2023年12月に稼働を開始しました。
2024年1月29日には起動式を執り行い、2月からは営業運転に入っています。
日々の生活の必需品であるティシュペーパーやトイレットペーパーなどの家庭紙は今後も底堅い需要が見込まれ、最新鋭の抄紙機によって、お客様に競争力のある原紙を供給できるよう体制を整えていきます。

生産品種：ティシュ・タオル・トイレットペーパー原紙
生産能力：約22,000t/年

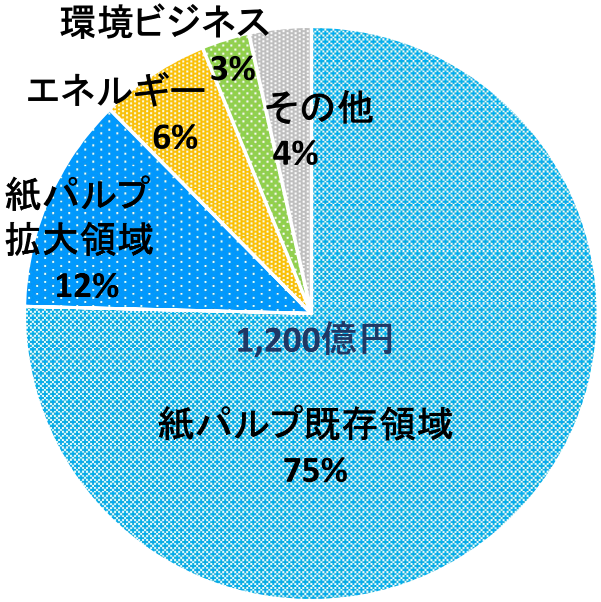
中期経営計画2025　取組み状況：事業ポートフォリオ(売上高構成)



2020年度実績



2023年度実績



2025年度見通し

●2023年度はパルプの増販、新規需要の取り込みなどで7%の紙パルプ事業領域拡大(2020年度比)となりました。
　2月以降の家庭紙上市の影響により、今後さらなる拡大を見込みます。

●エネルギー事業は総売上高の拡大等の影響により、2%減(2020年度比)となりました。

●環境ビジネスは中越エコプロダクツ事業の営業運転開始などにより、2024年度以降増加する見通しです。

中期経営計画2025　取組み状況：サステナビリティ（ESG）活動　–環境-

「ビジョン2030」にて掲げた「既存事業の発展・環境ビジネスの発展・イノベーションにより、森林資源の有効活用を通じた循環型社会の構築と持続可能な未来を実現する」ために、サステナビリティ活動を推進しております。

TCFD

提言に沿って事業への影響の分析を行い、重要なリスク・機会を開示。また製造工程における化石燃料由来のCO2排出量を2030年度までに50%削減（2013年度比）を目標として掲げている。

GXリーグ

2024年度に新規参画。今後、GHG排出削減、サプライチェーンでの取り組み、グリーン市場創出に向けた取り組みを進める。

港湾脱炭素化推進協議会

港湾・臨海部を脱炭素化する「カーボンニュートラルポート」形成に向けた協議会が立ち上げられ、川内工場は川内港、高岡工場・二塚製造部は伏木富山港の協議会への参加を表明し、取り組みを進める。

自然共生サイト

地域の生物多様性保全の場としての貢献、環境教育の場の提供、竹紙・里山物語の取り組みが評価され、「中パの森　高岡」が自然共生サイトに認定。

中期経営計画2025　取組み状況：サステナビリティ（ESG）活動　-人的資本-

定年延長制度	高齢者雇用について、これまでの再雇用制度から定年を65歳とする定年延長制度を2024年4月より導入。
ダイバーシティ推進	「人材育成に関する方針」「社内環境整備に関する方針」を定め、2033年3月までに管理職に占める女性労働者・中途採用者の合計割合を25%以上、2026年3月までに育児休業取得率を男女ともに100%とする目標を設定。

中期経営計画２０２５　取組状況

nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（ ②- Ⅰ ）

新規分野への nanoforest 展開

・ゴム分野への nanoforest 利用

これまで進めてきた農業分野における nanoforest-S【アグリ】、【ファーム】の普及、並びに化粧品原料向け nanoforest【MicC】の販売等の取り組みに加え、ゴム分野への利用拡大に向けた取り組みも進めています。

樹脂への分散性向上を目的に開発を進めたCNF乾燥粉体 nanoforest-PDPを、ゴム原料に高配合したマスターバッチ（MB）を開発致しました。このゴムMBを用い、リッパー株式会社では、モビリティー用タイヤの開発を進めています。

出展：https://lipper.io/pulcle/

CNFを配合することで反発弾性率が向上し、乗り心地の改善や燃費向上が望めるほか、走行時の摩耗が減ることも確認されており、摩耗減によるタイヤ粉塵の軽減が期待されています。

タイヤ粉塵は、環境問題で良く取り上げられるマイクロプラスチックの7割を占めるとも言われており、これらを軽減させることは、社会への大きな貢献に繋がると考えています。

本年4月よりCNF配合タイヤを装着したシェアサイクルによる公道での走行実証試験が静岡市でスタートしています。

中期経営計画２０２５　取組状況

nanoforest実用化、高機能CNF研究開発の加速（ ②-Ⅰ ）

高機能CNFパイロットプラント建設に向けた取り組み

従来から販売している

- ・nanoforest-S（水分散）　低解繊CNFのスラリー品（水分散品）
- ・nanoforest-PDP（粉体）　樹脂やゴムへの分散性を改善させたCNF乾燥粉体
- ・nanoforest-MB（ペレット）　CNFを樹脂やゴムなどに20～30%分散させたもの

に加え、以下の3種類の高機能CNFの製造、及びパイロットプラントの建設に向けた取り組みを進めています。

1）nanoforest-S（高解繊CNF）

従来品よりも解繊を進め、高機能製品への適応性を向上させたCNF
主な用途：化粧品、農業利用

2）nanoforest-M（疎水化CNF）

有機溶剤やオイルなどへの分散性を向上させたCNF
主な用途：化粧品、工業利用
（オイルの増粘効果があり、化粧品用途では触感が改善）

3）nanoforest-CMB（CNF成形体）

nanoforest-Sを脱水乾燥させた軽量高強度な固形状の成形体

2022年春から実機設備を用いた検証テストを進め、現在、各製品、及びサンプルの販売を行っています。
利用拡大を図ると共に、販売先からのフィードバックをパイロットプラント設計に反映させ、
製造方法の効率化と製造コスト削減に向けた検討を進めています。

中期経営計画２０２５　取組状況

中越エコプロダクツ事業（ ②-Ⅱ ）

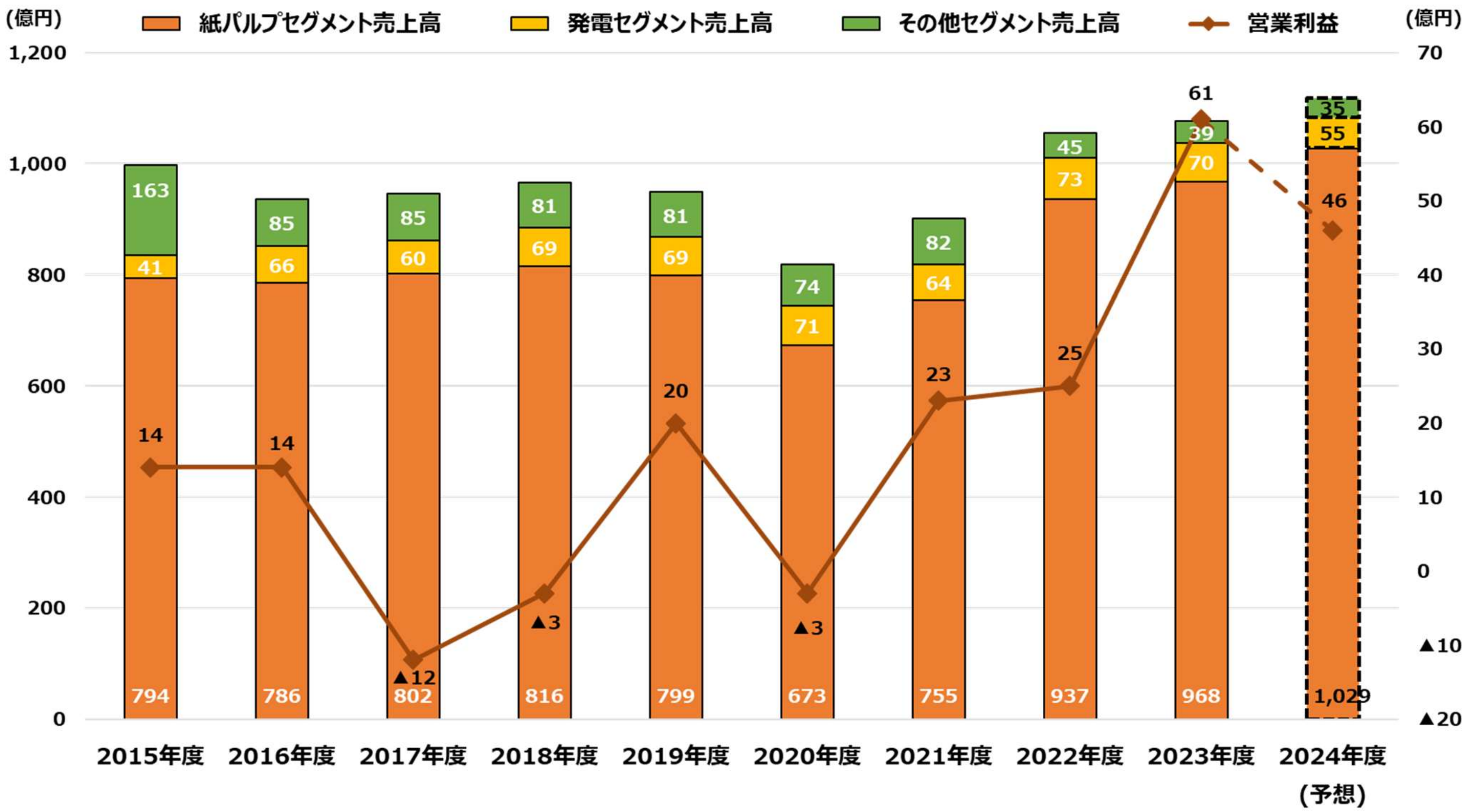
MAPKA®サンプルペレット提供中

① 昨年夏以降、**40社以上へペレットを提供**
② お客様においてカトラリー、文具、フックなどの**製品を開発**
③ シートグレード、射出グレードに加え**生分解グレード開発中**

当社高岡工場と中越エコプロダクツ㈱

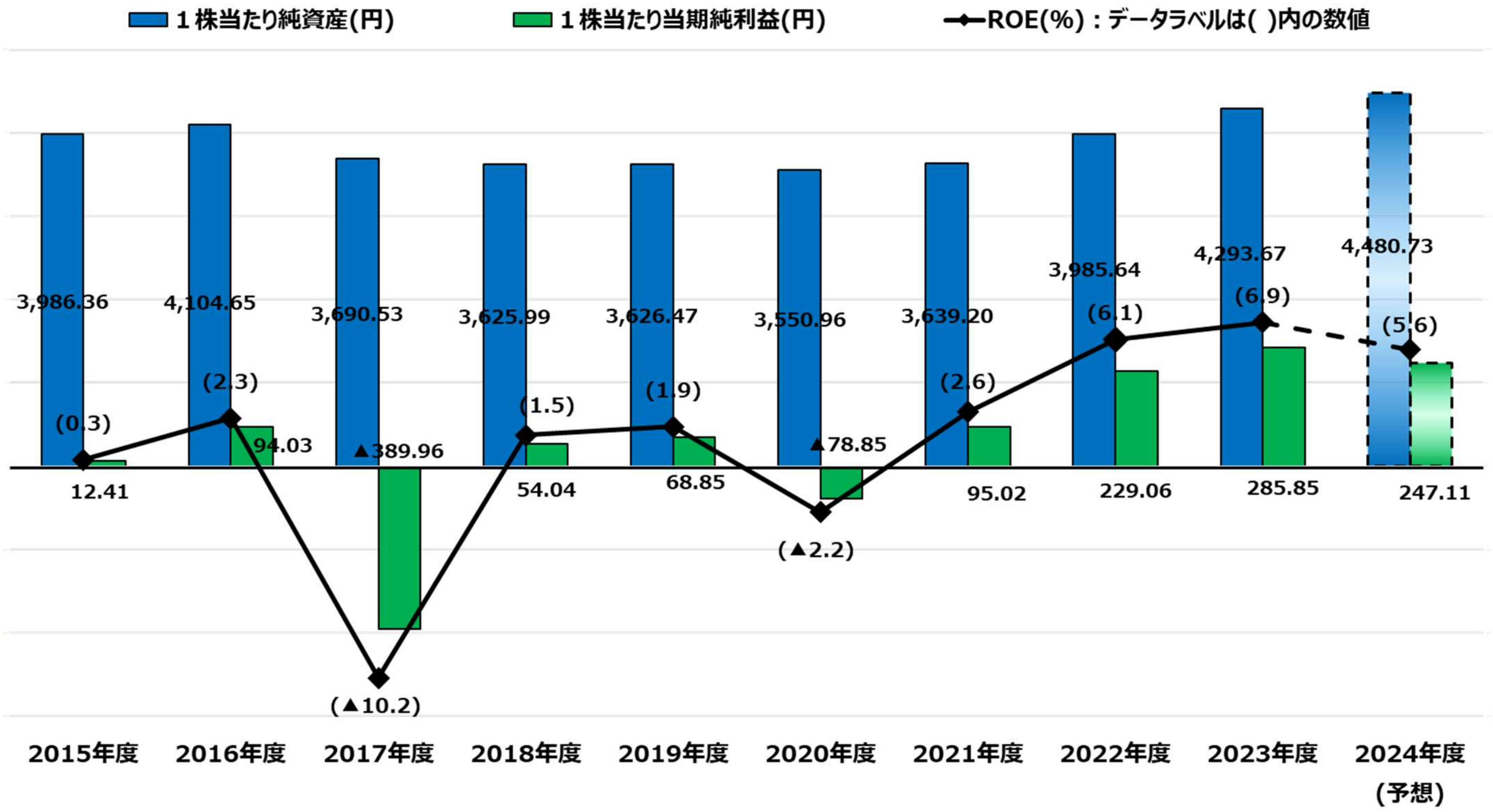
MAPKA®生産工程

【参考資料】連結業績推移

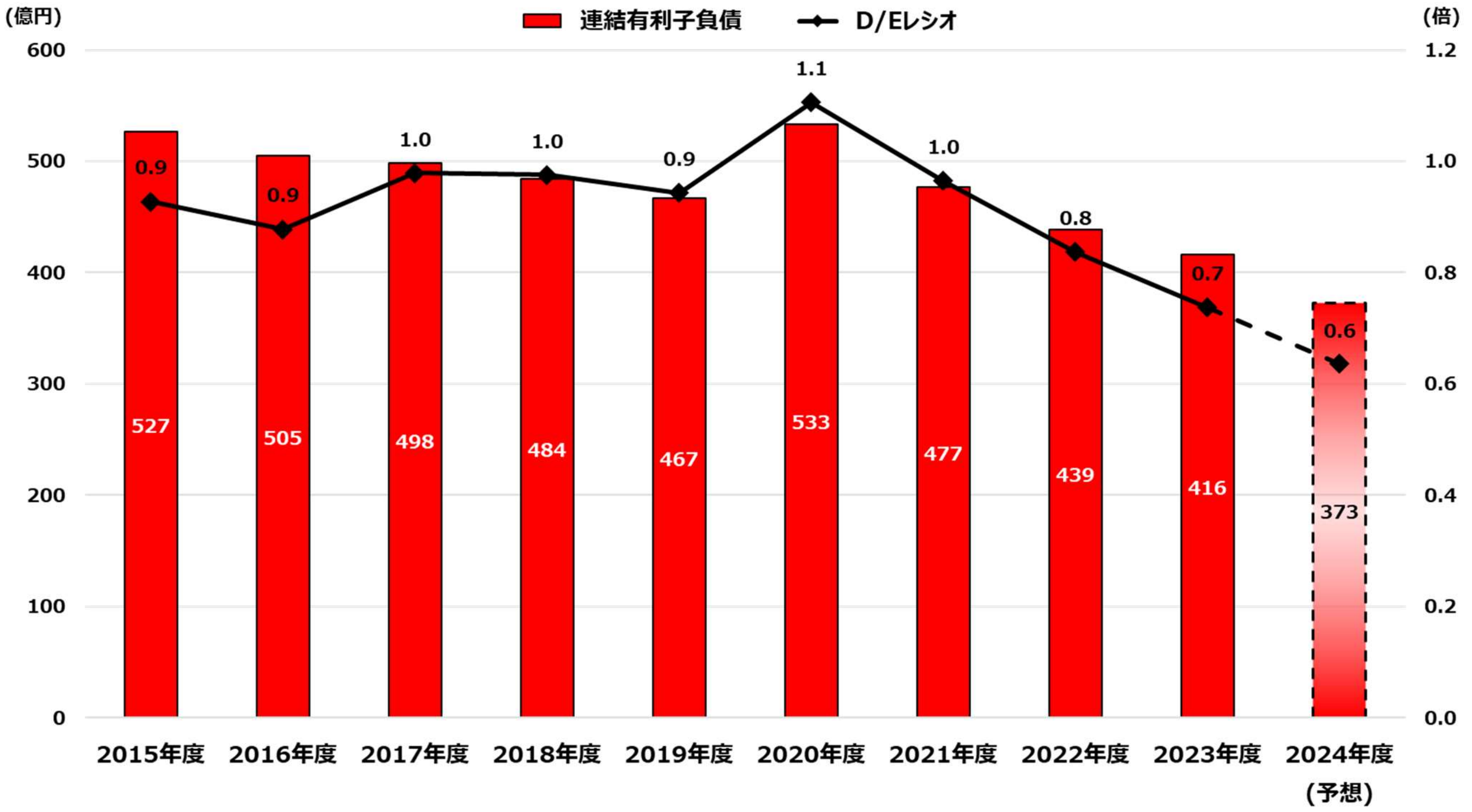


(億円)
紙パルプセグメント売上高
発電セグメント売上高
その他セグメント売上高
営業利益
(億円)
1,200
1,000
800
600
400
200
0
70
60
50
40
30
20
10
0
▲10
▲20
163
41
794
14
85
66
786
14
85
60
802
▲12
81
69
816
▲3
81
69
799
20
74
71
673
▲3
82
64
755
23
45
73
937
25
39
70
968
61
35
55
1,029
46
2015年度
2016年度
2017年度
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度
(予想)

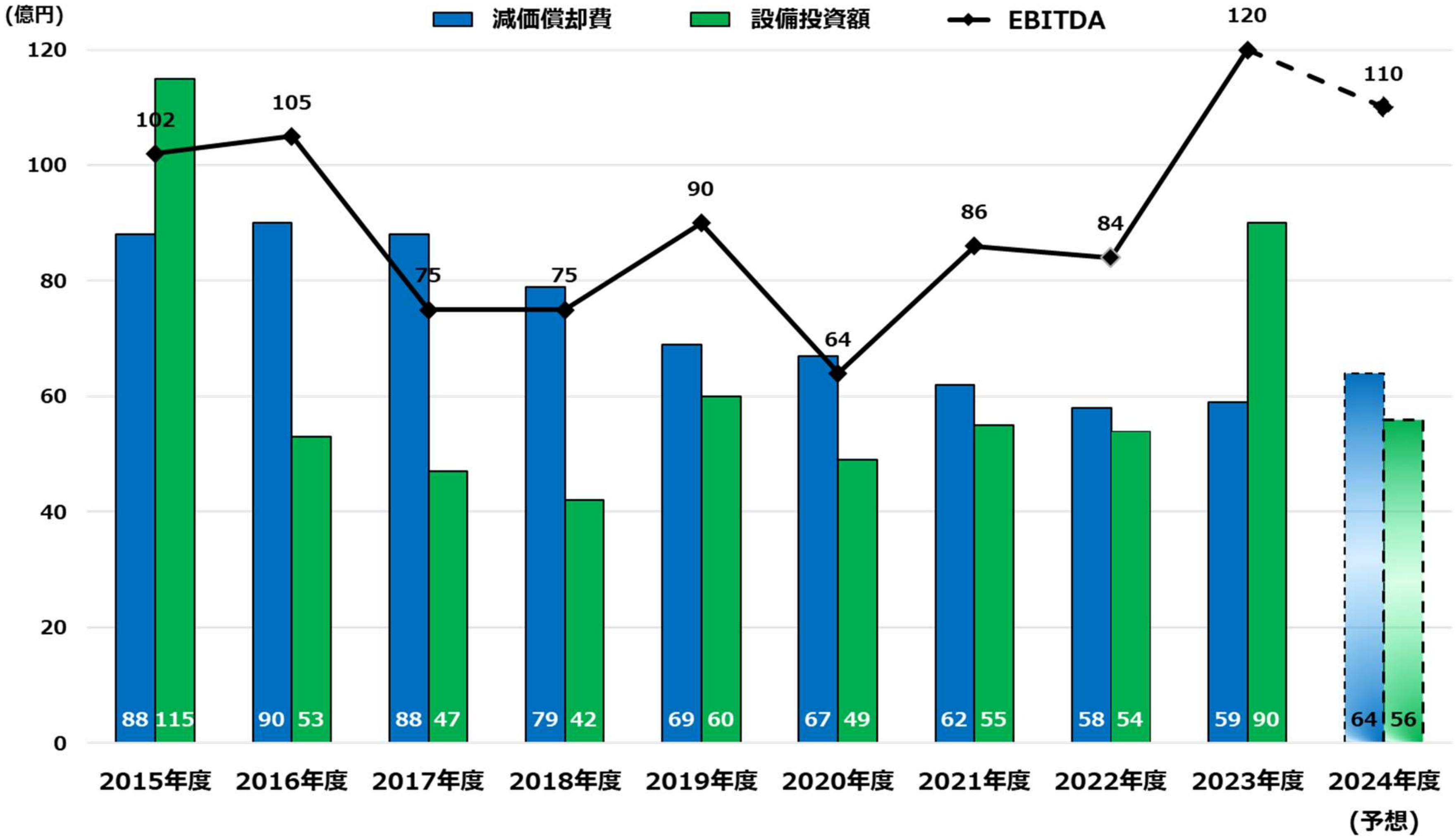
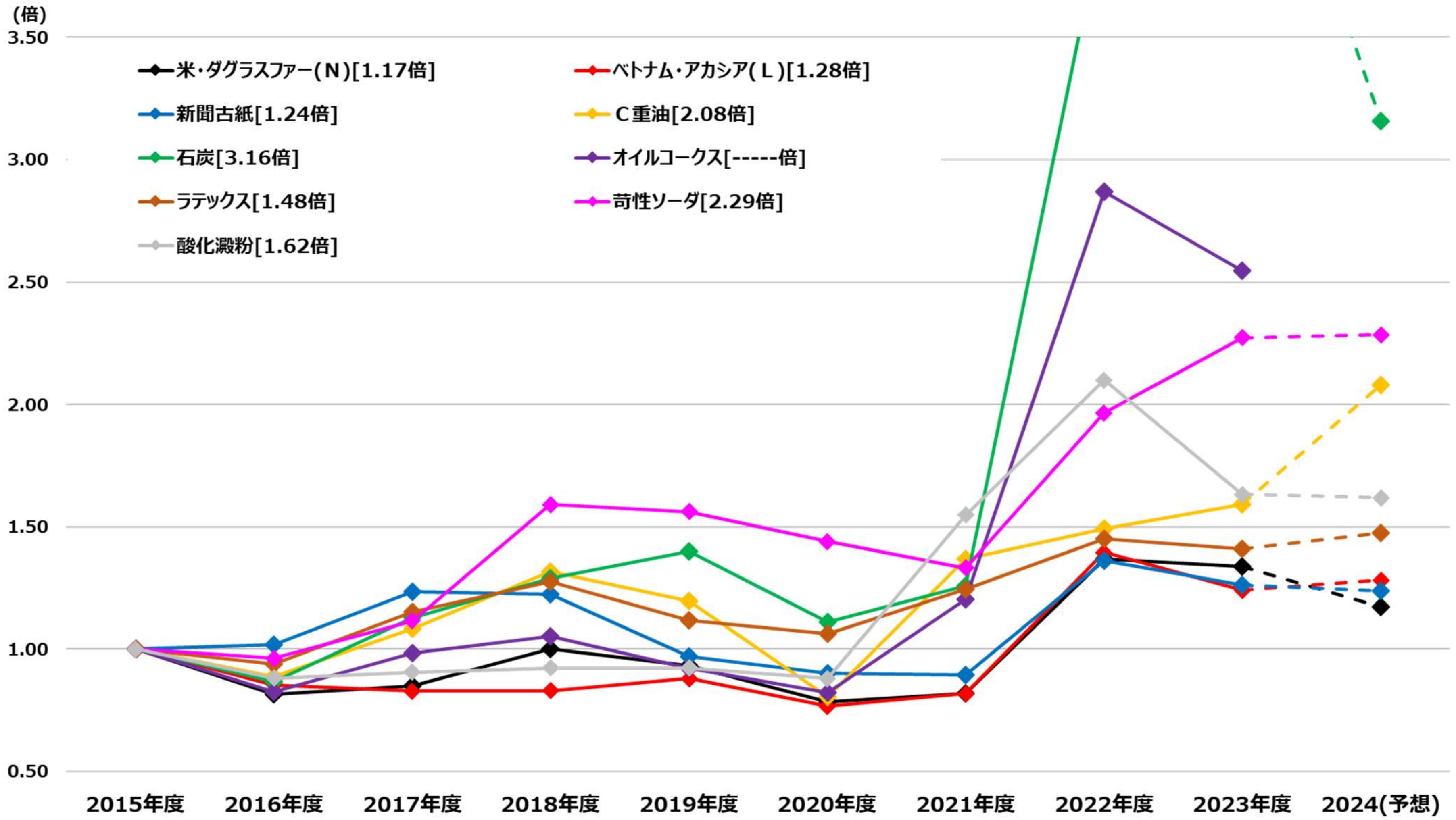
【参考資料】連結自己資本利益率(ＲＯＥ)推移



【参考資料】連結有利子負債残高推移



【参考資料】連結設備投資・減価償却費推移



【参考資料】原燃料価格推移(対2015年度比較)